



要求工学について

Group-I7

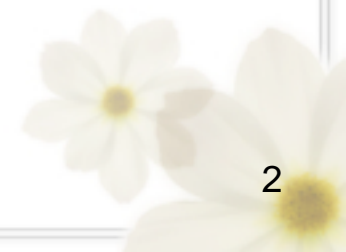
2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世



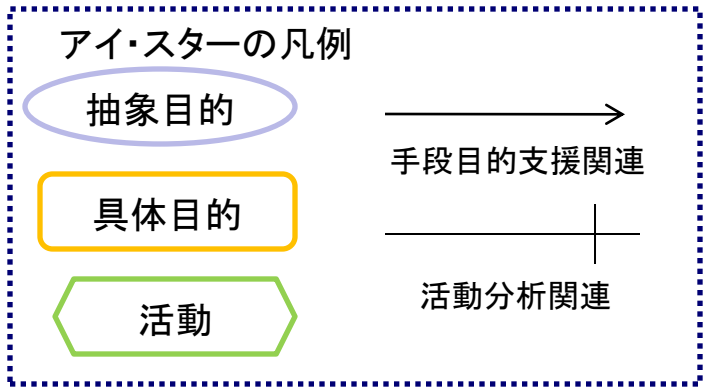
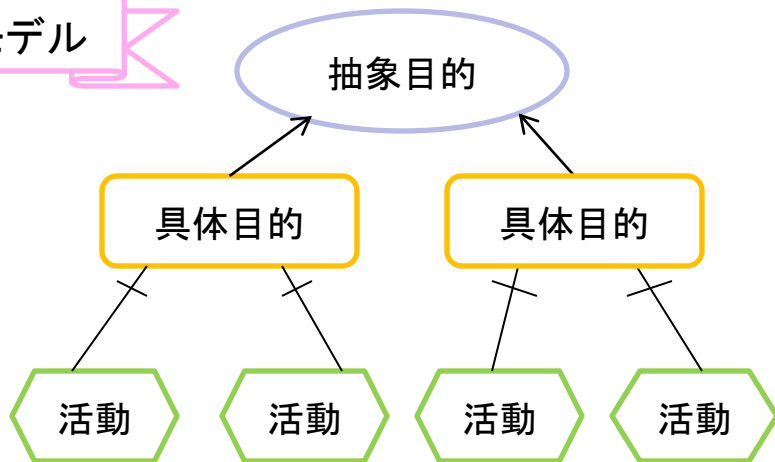
目次

- 前回の質問に対する回答
- 実例を用いた検証(1)
- 実例を用いた検証(2)
- 今後の課題
- 参考文献

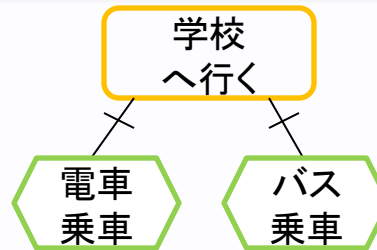


質問に対する回答(1)

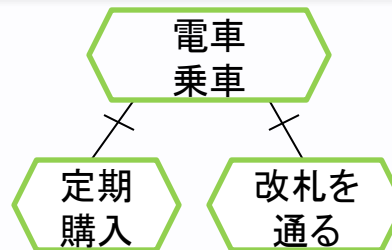
ゴールモデル



- スティブン・ブライスタインのアイ・スター解釈
ゴールを達成するタスクを特定するために使用



- 私たちのアイ・スター解釈
ゴールを達成するタスクに分割するために使用



質問に対する回答(2)

- 質問内容: 先に描くのはゴール指向分析かジャクソン問題図か、それとも平行して描くのか?



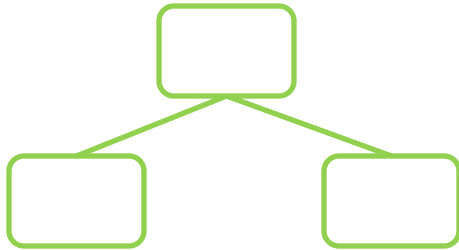
資料に記述されていなかった...



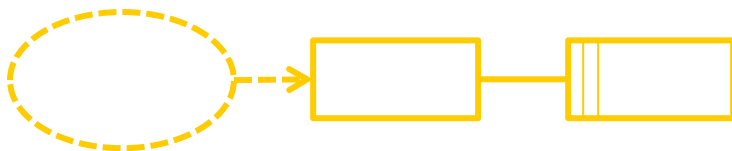
アルバイト先の喫茶店(株式会社ダフネコーヒーの直営店)の「お客様を増やす」というソフトゴールを対象とし二通りで検証

< 方法1 >

①ゴールモデル

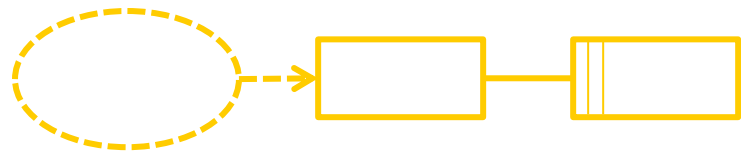


②ジャクソン問題図

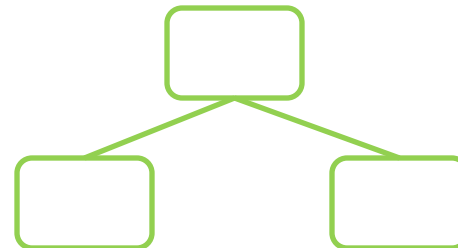


< 方法2 >

①ジャクソン問題図



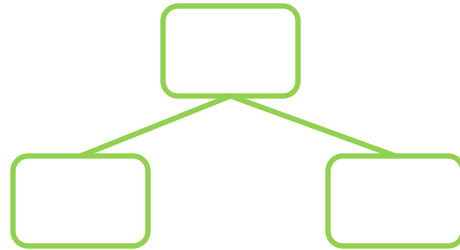
②ゴールモデル



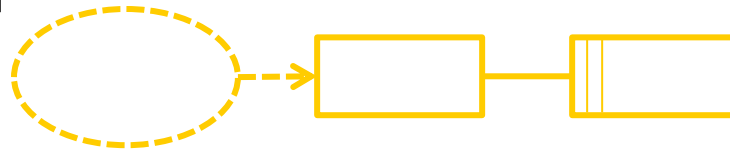
方法1

<方法1>

①ゴールモデル



②ジャクソン問題図



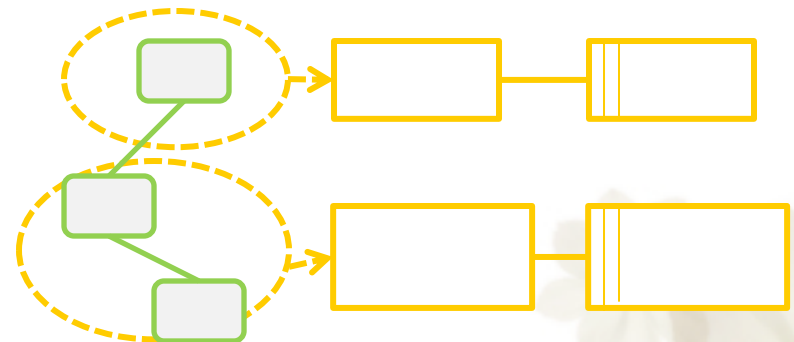
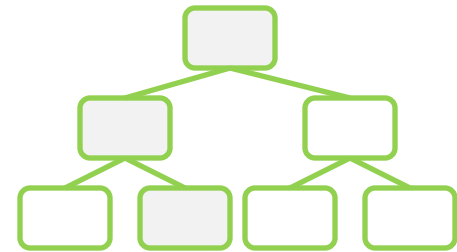
作業の流れ

①ゴール指向分析でソフトゴールを分解する

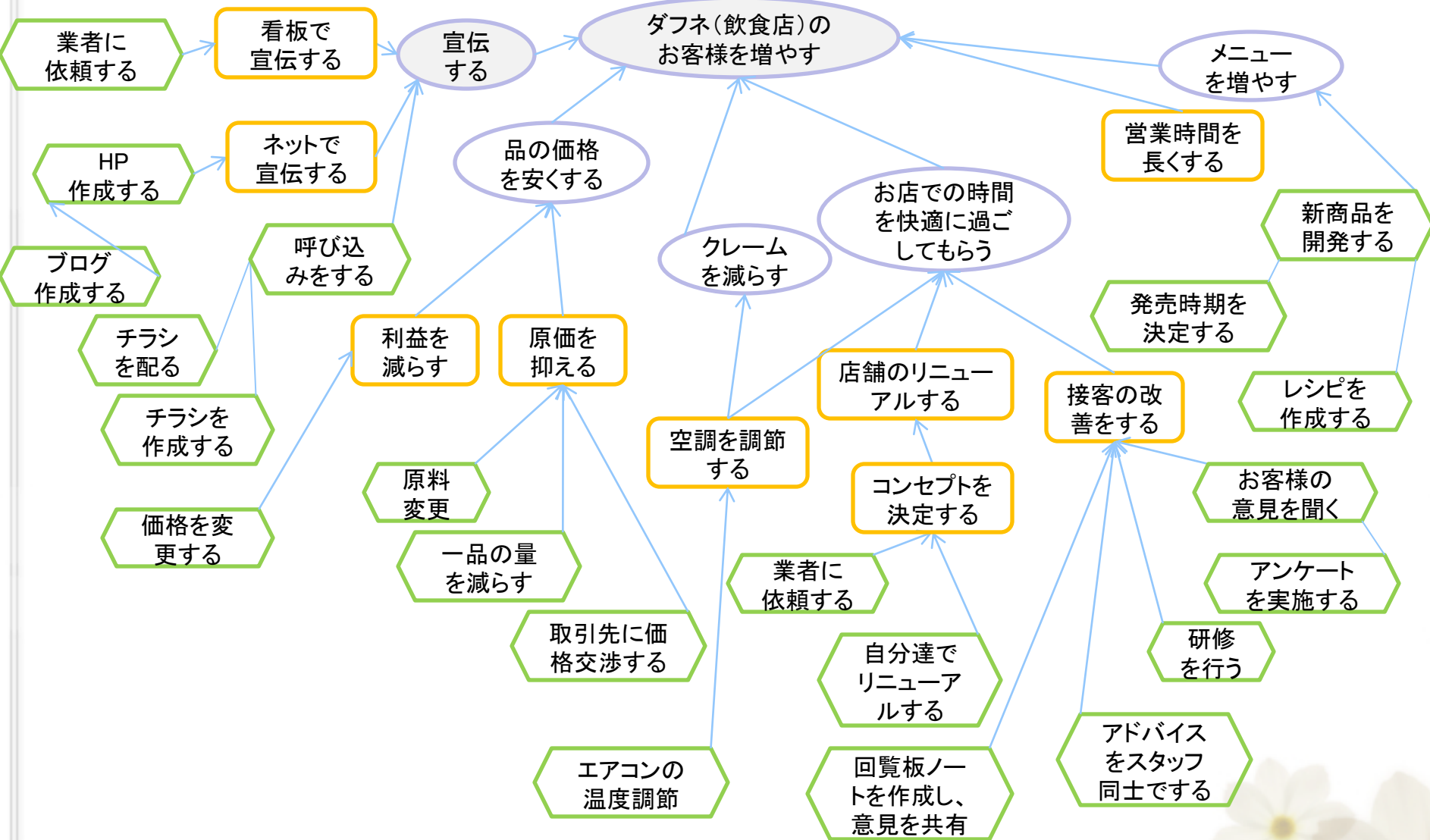
②どの手段を用いてソフトゴールを達成するかを決定する

③各要求に対し、ジャクソン問題図を当てはめていく

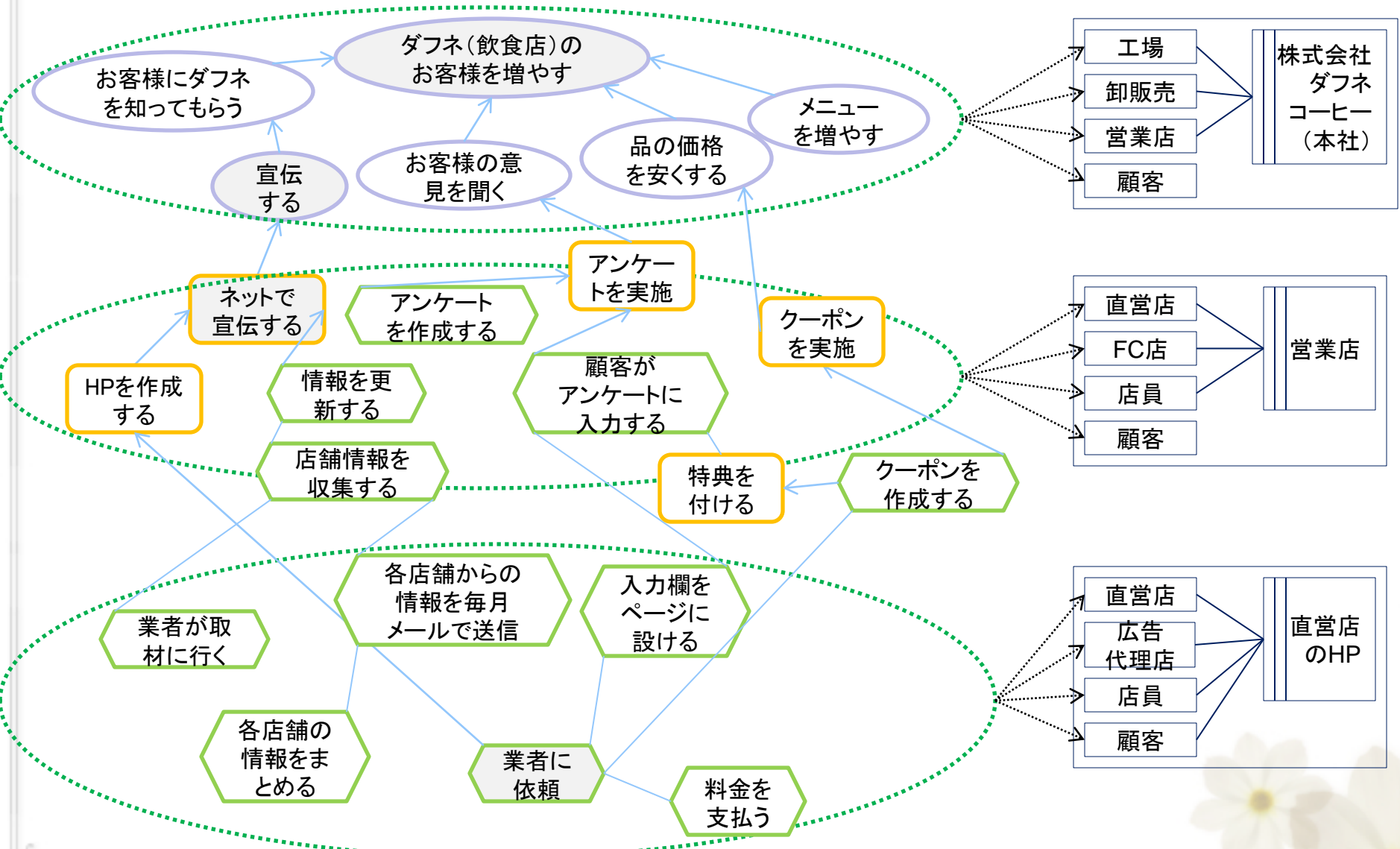
④さらに細かく要求を分析していく



方法1-1(ゴールモデル)



方法1-2(ゴールモデルとジャクソン問題図の統合)





利点と問題点

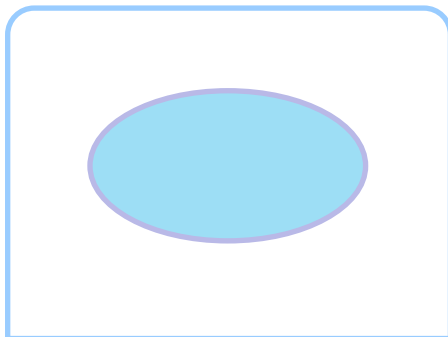
利点

- 要求を自由に分解することができる

問題点

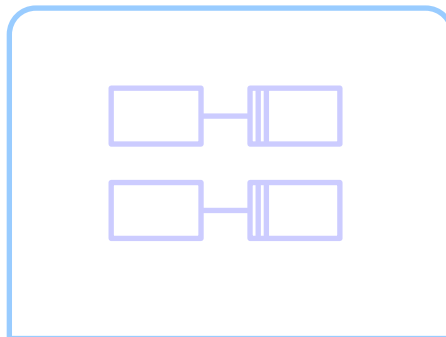
- どこまで細かく分解すればよいか不明
- 要求を2回分解しなければならない
- どの戦略が一番良いかを測るものがない
- ジャクソン問題図を用いながら要求を分析する

方法2 ~作業の流れ~

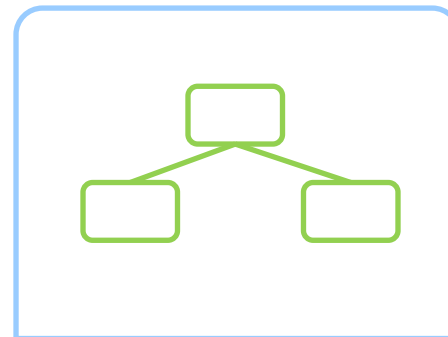


ソフトゴール(戦略ゴール)の設定

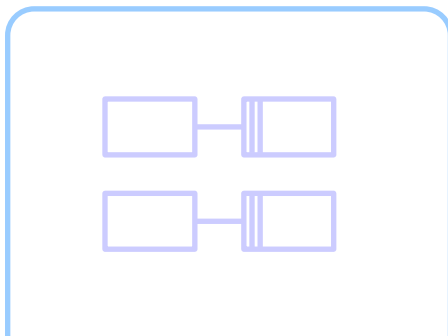
1



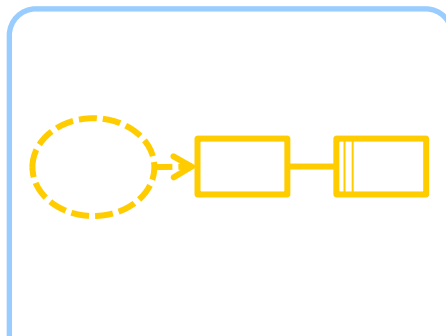
関係性の高い環境を分解・抽出



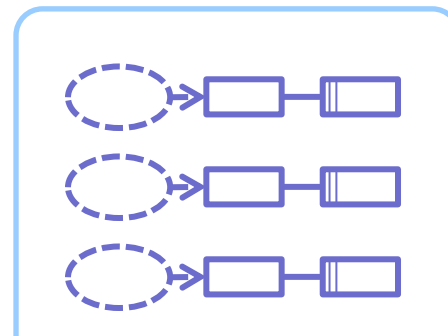
ゴール指向分析を行う



さらに関係性の高い環境を分解・抽出



ジャクソン問題図の作成



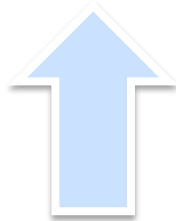
完成



方法2-1

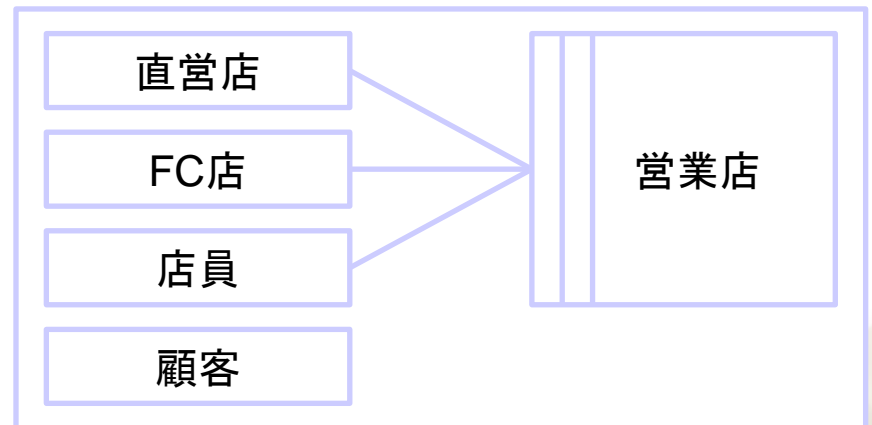
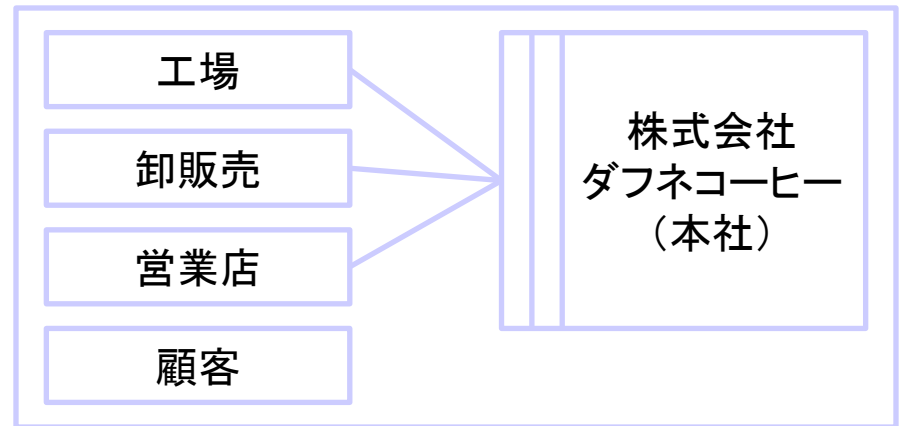
1、ソフトゴール(戦略ゴール)の設定

ダフネ(飲食店)の
お客様を増やす



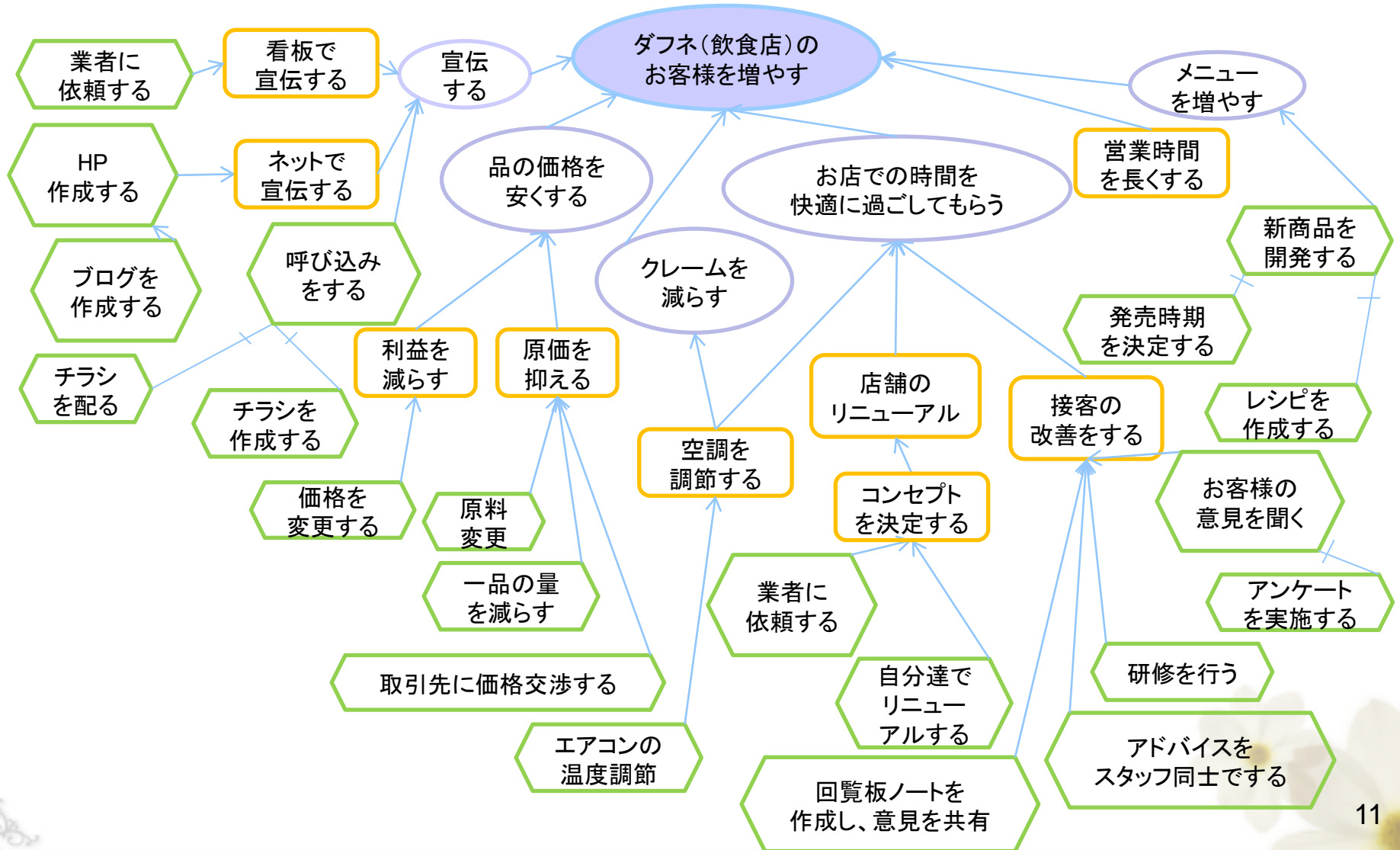
今回の対象は、営業店の中でも
直営店のダフネなので「営業店」の
組織(環境)までの分解を行う

2、関係性の高い環境を分解・抽出



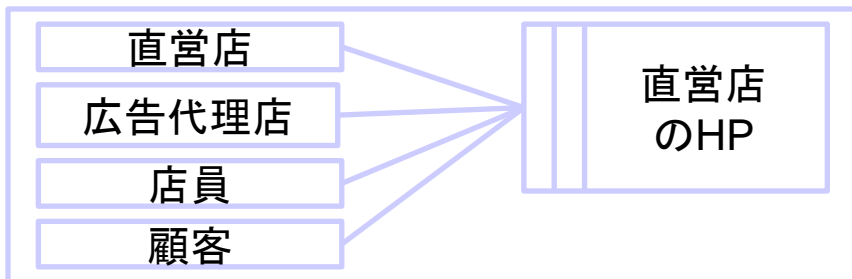
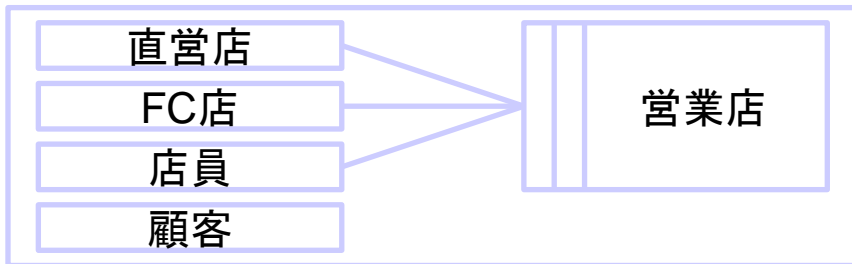
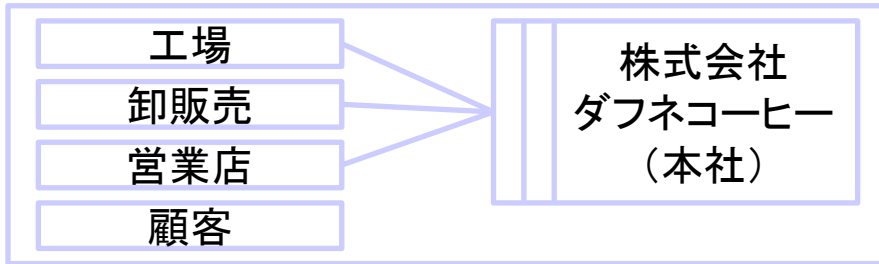
方法2-2

3、ゴール指向分析を行う

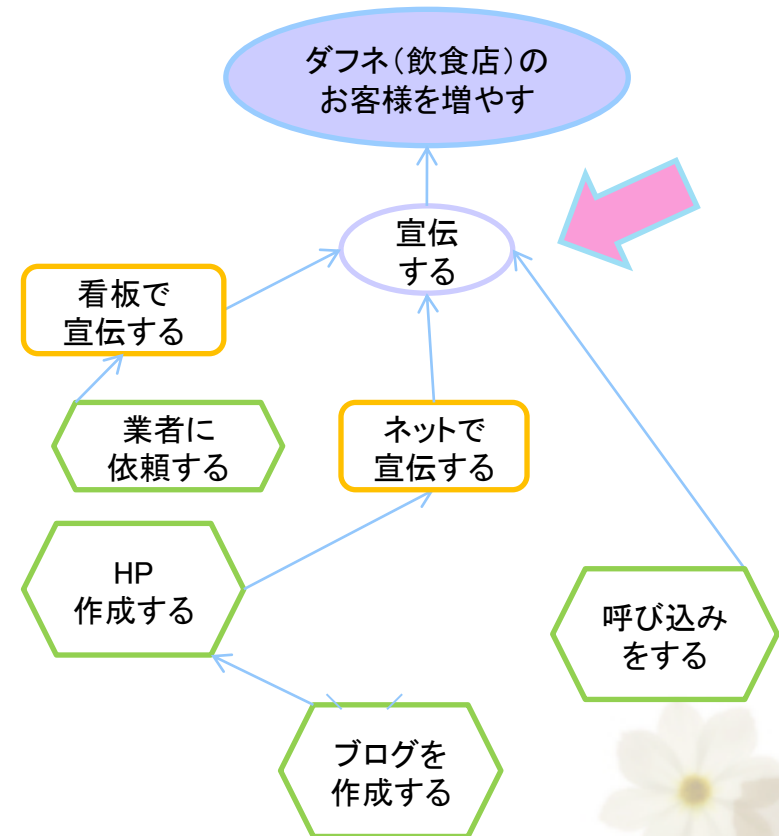


方法2-3

4、さらに関係性の高い環境を分解・抽出

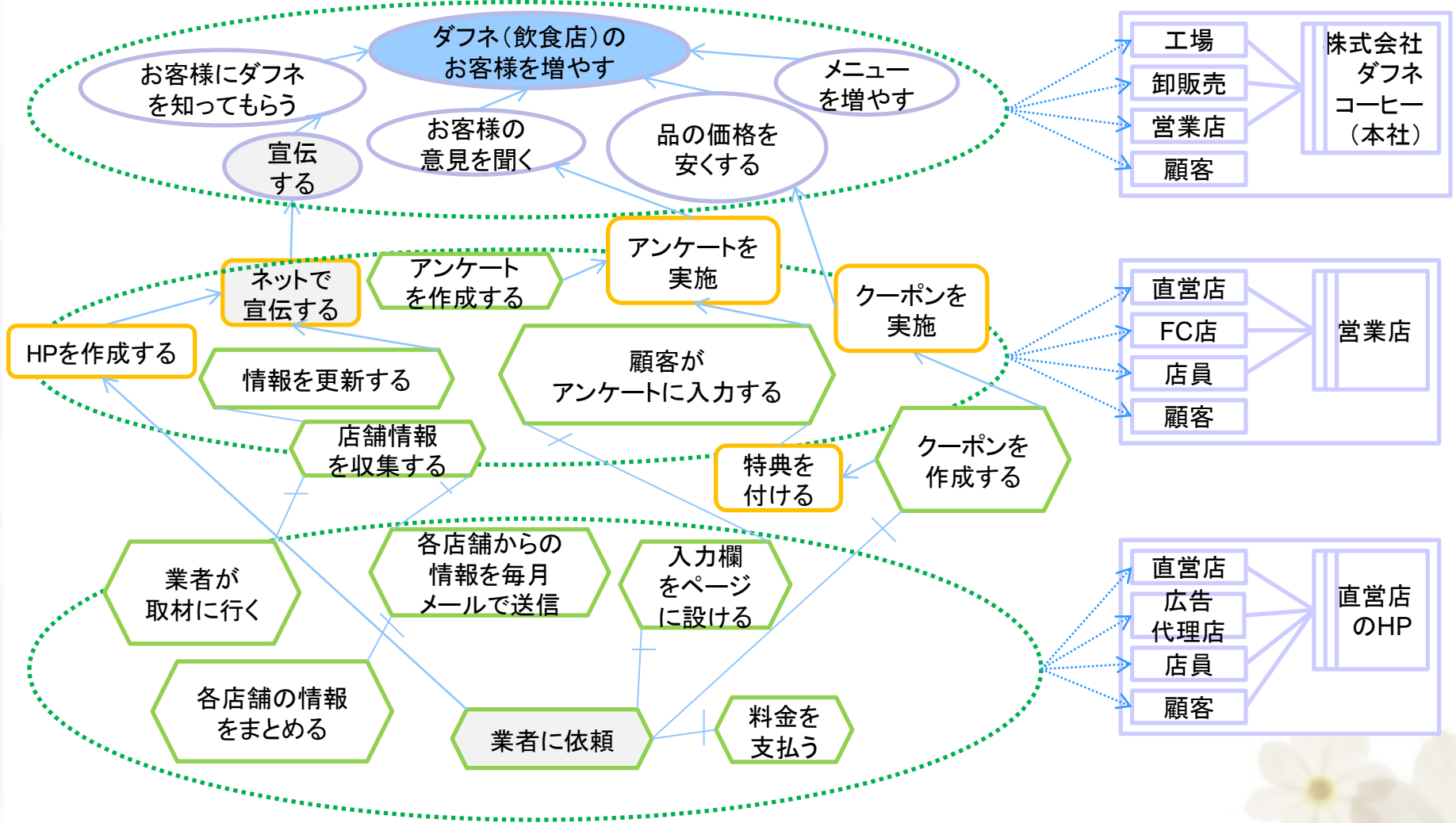


今回は「宣伝する」という
ソフトゴールを
満たす要求を考える



方法2-4

5、ジャクソン問題図の作成





利点と問題点

利点

- 完成時に、誰と誰の間(どの段階)の要求が明確
- 具体的な環境要素から新たな要求の抽出を行える

問題点

- 環境分解の方向性が、決めにくい
- 結果的に2回以上の環境分析が必要
- 要素が抽出できず、気づきにくくなる要求が存在する可能性がある



疑問点・気付いた点

疑問点

- 初めの環境分析時に、どのレベル、どの組織に関して分解していくのか明確に、線引きできない
- 要求をハードゴールにするか、タスクにするか判断が難しい
- 実際に効率が良いのか

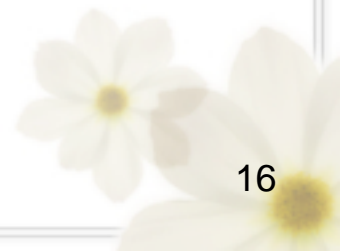
気づいた点

- 分解や分析を行うときに、ある程度その組織の改善を行っていくかを考えていくとよい
- 結局、環境分解と要求分析を同時進行で行っているようになる



今後の課題

- 今回感じた疑問点を基に研究を進めてく





参考文献

- Requirements Engineering for e-Business Systems: Integrating Jackson Problems Diagrams with Goal Modeling and BPM

